

迎春宮普請

岐阜山里、二つの地区集落は100戸余り。その集落共通のお宮さんがあります。野々宮神社と言われていますが、標高250m位の山頂にあり、「参道」はまさに「山道」で獣道のような道を30分ぐらい登った場所にあります。毎年、年末になりますと宮普請と称して、参道(山道)の補修と野々宮神社の飾り付けを行なっています。今年も2014年12月のある日集落の組の衆と一緒に宮普請に出かけました。



参道ならぬ山道です。落ち葉や枯れ枝などを熊手などで掃き清めてゆきます。

雨水で荒れた箇所は「トウグワ」で地ならしをしながら登ってゆきます。



急な登り坂では、間伐材を運び出して階段を作りながら進んでゆきます。

埋め込んだ間伐材が移動しないよう、「カナギ」で「杭」を作り固定します。



神社に到着後、飾り付けです。注連縄は約2m。今年は小生が「縛って」奉納しました。

門松には、「松」と「ソヨゴ」、「ソヨゴ」はこの地方では「フクラ」と呼び「福」を呼ぶと言われています。



鳥居に国旗を掲揚します。

迎春準備完了です。



この神社の起源はよく分かりませんが、よくこのような山頂に築いたものです。この集落の歴史は江戸時代尾張藩に属しており徳川家直轄の天領だったようです。現在でも年間を通じて行事が行なわれその都度登山をしながら奉納行事が行なわれています。初詣ですが、除夜の鐘を聞くと同時に山道を登ってゆく慣わしですが、今年は昨年末からの雪で深夜の登山はあきらめ、元旦の昼過ぎから家内と子供夫婦と4人で初詣登山をしてきました。